

「地域コミュニティの再生に向けた世代横断型スポーツイベントの提案」

Proposal for a cross-generational sporting event for the revitalization of a local community

國島ゼミ

学生氏名¹⁾：桑原一平,佐々木崇人,長尾秀樹,荒木美晴,尾崎久遠,川井大輝,長田青海,多田隼祐

指導教員 國島 弘行

創価大学 経営学部 経営学科 國島ゼミ

本発表では、地域コミュニティの弱体化に焦点を当て、世代を超えた交流を促進するスポーツイベントの提案を行います。地域社会のつながりを再構築し、高齢者の孤立化や町内会の活性化といった社会問題の解決に寄与することを目指します。

キーワード：地域コミュニティ,孤独死,高齢化,スポーツ,町内会

1.はじめに

近年、地域コミュニティの弱体化が深刻化しており、町内会や自治会などへの参加者が年々減少している。

実際、八王子市の調査では、自治会・町内会の加入率は、平成元年 80%から平成 29 年 58.22%まで低下した。特に若い世代では、従来の地域活動への関心が薄れ、日常生活がデジタルデバイスに依存するようになり、近隣との繋がりが希薄化している。こうした地域の課題に対して、世代を超えた住民同士の交流を促進し、地域コミュニティを活性化させるためのイベントの開催が必要であると考えた。そこで本発表では、地域コミュニティの弱体化による高齢者の現状を交えて紹介し、その改善に向けた具体的な解決策として、町内会や自治会対抗のスポーツイベントを提案する。

2. 現状分析

地域社会におけるつながりの希薄化は、高齢者の孤独死という深刻な社会問題を引き起こしていると考えられる。警察庁の「令和 6 年度死体取り扱い状況」によれば、自宅で死亡した一人暮らしの高齢者は、全体の 35.9%を占め、そのうち高齢者の割合は 7 割以上を占めている。このことから、地域コミュニティから孤立し、適切な見守りが不足している高齢者が多いことが伺える。また、内閣府の調査では、友人がいない高齢者の生きがいを感ずる割合は約 4 割、近隣との付き合いがない場合では約 6 割に留まっており、孤独感が深刻であることが示されている。さらに、東京都 23 区内における 65 歳以上の一人暮らし高齢者の自宅での死亡者数は、令和元年には 3,936 人に達し、過去 10 年間で約 1.8 倍に増加している。

図表 1 <東京 23 区内における一人暮らしで 65 歳以上の人の自宅での死亡者数>



出典：内閣府「令和3年版高齢社会白書（令和3年6月）」

このデータは、特に都市部において地域コミュニティの機能が衰退していることが、高齢者の孤立を助長していることを示唆している。また、町内会や自治会が果たしてきた「見守り」の役割が失われつつあるため、地域住民が互いに支え合う仕組みが十分に機能していないと考えられる。若年層の町内会や自治会への参加率も低下傾向にある。国土交通省の『国民意識調査』では、若い世代ほど地域のつながりを重視しない傾向が確認されており、特に核家族化や共働き世帯の増加により、地域活動への参加が困難であるとの報告がある。さらに、デジタル化の進展により、日常的なコミュニケーションがオンライン化する一方で、隣人との対面交流が減少し、地域コミュニティとのつながりが希薄になっていると推測される。

3. 課題

地域コミュニティの弱体化は、高齢者の孤独死のみならず、子どもの虐待など他の社会問題の発生リスクを高めると考えられる。特に孤独死の問題に対しては、高齢者だけではなく、地域全体が互いに支え合う仕組みの再構築が求められている。少子高齢化が進む中、世代を超えた住民同士の交流を促進し、地域社会の活性化を図ることが重要である。内閣府の「世代間交流に関する意識調査」では、多くの高齢者が若い世代との関わりを望んでいることが明らか

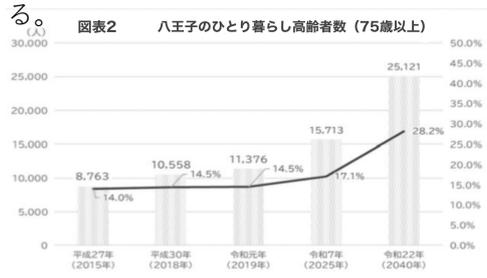
かにされており、特に近隣の若者との交流が、生きがいの形成に大きく寄与することが示されている。一方で、若年層も高齢者との交流を通じて、防災や防犯の知識を学ぶことができるなど、双方にとってメリットがあることが指摘されている。町内会や自治会は、本来このような世代間交流や住民同士の支え合いを促進する役割を担っているが、若年層の参加率低下により、その機能が十分に発揮されていない現状がある。特に、町内会の活動内容が現代のライフスタイルに合致していない、あるいは町内会に参加するハードルの高さや、楽しくなさそうなイメージが理由で参加率の低下に繋がっていると考えられる。

4. 「スポーツイベント」の提案

上記のような課題から私たちはスポーツイベントの開催を提案する。スポーツの内容は、ネオテニス、フライングディスク、ポッチャなどの障害者スポーツをメインとしたもので、どの世代の人でも気軽に楽しめるものを行う。開催頻度は、1週間に1回体育館で行い、毎週行うスポーツを変える。

5.提案の効果

このようなイベントを行うことで、人々がつながりを持てる場や仕組みを作ることが孤独死を抑制することにつながることから、1週間に1回行うことで、交流の場を提供し、見守りとしての役割も果たすことができる。さらに、核家族世帯や共働き世帯でも、高頻度にイベントを開催することで参加できる機会を増やし地域コミュニティに参加しやすくする。



引用 参考文献 3

図2からわかるように、八王子では75歳以上の高齢者の一人暮らし率は増加している。さらに上記で述べたように自治会・町内会の加入率は、低下していることから、一人暮らしの高齢者が社会と関わる場が減っていることがわかる。よって気軽に参加できるイベントを行うことにより社会との関わりを持つきっかけとなる。

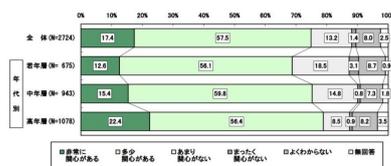


図3 年代別にみた北九州市のまちづくりに対する関心度

引用 参考文献 4

このスポーツイベントを通してまちづくりに若者の参加も見込まれる。図3をみると、若年層の「関心層」は68.7%と若年層全体の約7割が関心を持っており、若年層のまちづくりに対する意識が高いことがわかる。このことから、まちづくりに対して関心を持っている約7割の若年層は、スポーツイベントを開催した際に多くの若者の参加が期待できる。また、「よくわからない層」もスポーツイベントという、わかりやすい催しへの参加が見込める。スポーツイベントを定期的に行うことで、高齢者の健康維持にもつながる。高齢になると筋肉量の低下による転倒や寝たきり、フレイルの可能性が高くなる。そのため定期的なイベントに参加するために外出の機会と社会的なつながりを増やすことで体や心の健康を維持することができる。

6. おわりに

上記で示したように、現状は地域コミュニティの希薄化によって孤独死といった社会問題を引き起こすリスクが高まっている。そこで、スポーツイベントを定期的で開催することで、世代を超えた住民の交流を可能とする。それにより、地域コミュニティの強化とともに、体を動かすことで健康維持が期待される。このことから、スポーツイベントは、地域の人たちの居場所となり孤独死の防止にもなる。よって私達はスポーツイベントの定期開催を提案する。

参考文献

1. 八王子市町会自治会連合会『町会・自治会加入促進ハンドブック (改訂版)』2017年
2. 内閣府『令和3年版高齢社会白書』2021年
3. 八王子市『八王子市高齢者計画・第8期介護保険事業計画』88頁
4. 神山・石丸「「まちづくり」における若年層の参加促進要件に関する研究」『都市計画プロジェクト報告書 次世代に向けた集客力のある都市づくりに関する研究』北九州市立大学、2008年